

洋学文庫
文庫 8
A 11
4



此之蘭乃き...

其味とて一...
多由...
五...

...

...

...

庚戌
戊

...

...

...

拾遺記曰唐高祖武部許之。唐高祖感
之天子彼時氣ノモリハ急ク拾遺記ノ
久年ノ納ラシキ惜ク人ノ物アリ金
一兩會遇ノリナリ世一團ハ破又ハ
命信リ守ルモリ得テ暇ニ
又

江列蒲生郡小野村

人魚墓園

出于日本紀及古子傳

江
 守加蒲生郡日
 野ヨリ北東之開臺
 野余小
 野村ニ有

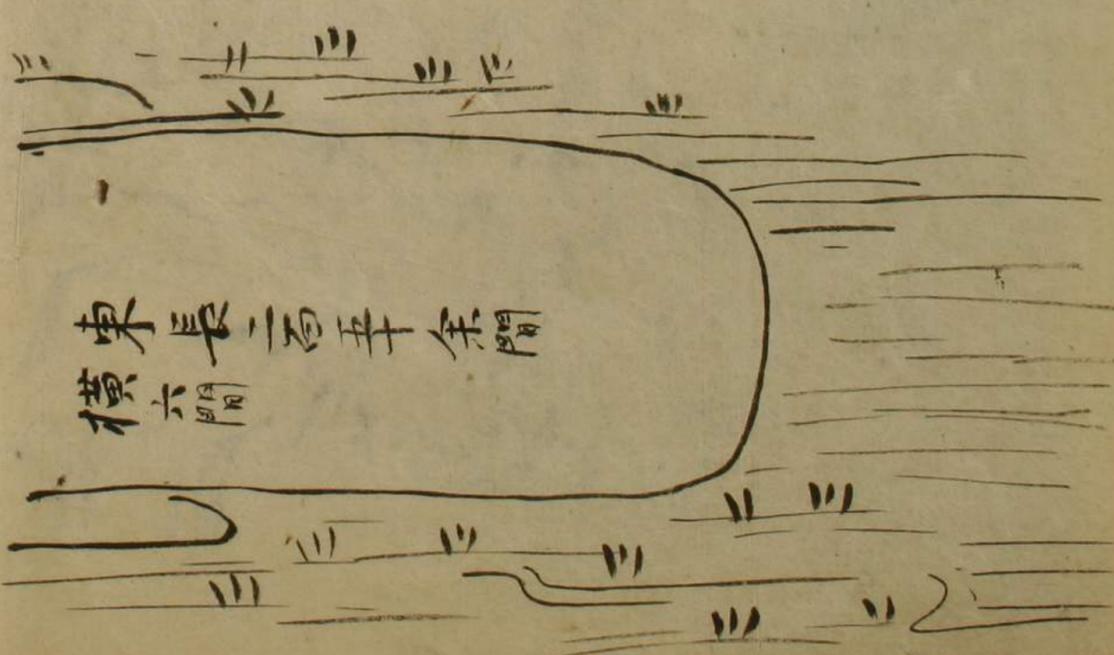


二七四

備中下道郡二方里二方塚之圖

此塚昔時ハ銅器數多
アリシト傳フ

塚ノ前後
左右昔ノ
塘ト見ヘテ
今ハ田トナル

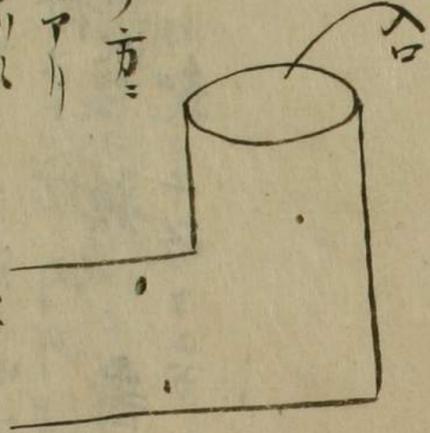


東長二百半余間
横六間

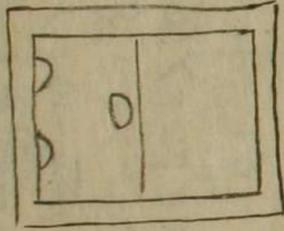
上穴

小墳ノ大墳ノ方ニ
ソウテ穴アリ
非人等ヲリシ
穴中ニ寝ルト云

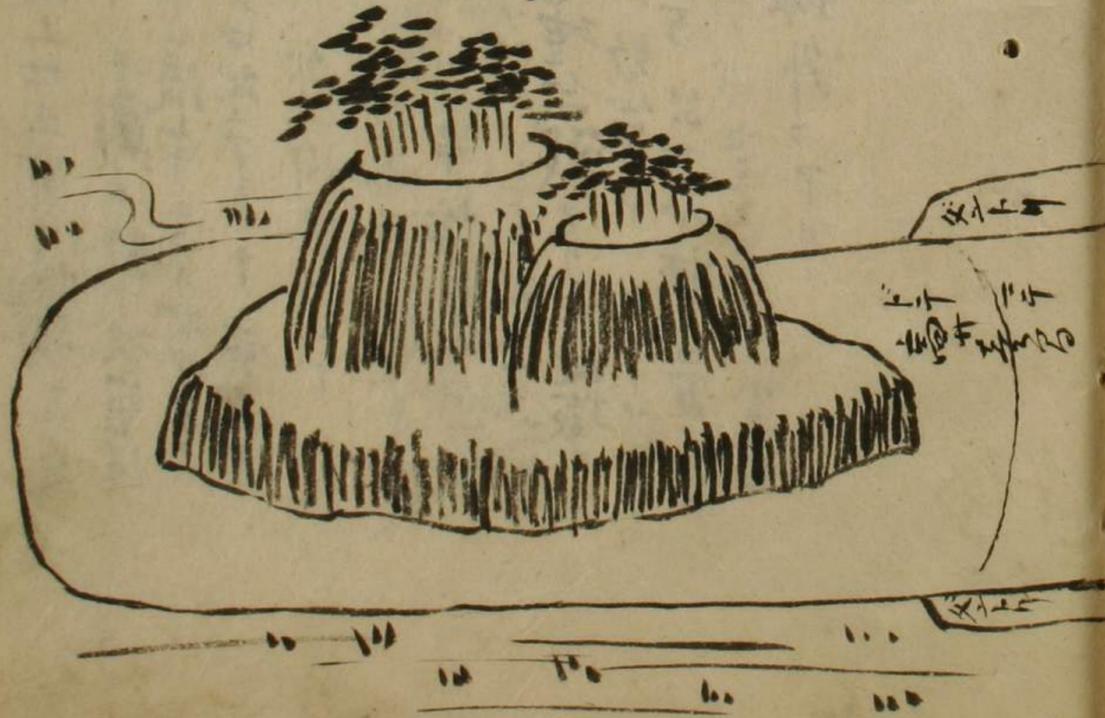
石ノ扉アリ



石扉行方戸
アキテアリ且
麻ニ銘アリト云



大墳 長八間 横六間
小墳 長七間 横三間半

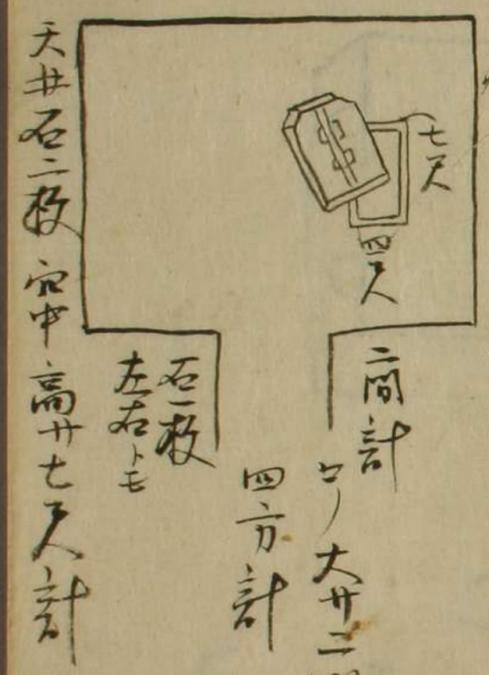


高廿五尺

其狀嚴然 古墳 土人誤テ 二方塚ト云 是上世王室ノ墳墓ナラズ
 明ケニ則圖スル如シ今ノ世コトク小松生葉最セリ千載ヲ經テ狀崩損
 セサハ此墳ノ幸ト云ヘシ今圖丘ニツアリ 土崩レ流シテニツノ狀ヲ見ス
 五ノカ小墳ノ方ニ墓坑アリハシ見ユルナリ 穴ノ口北ニアリテ廣サ六尺
 三十年以前迄土人這入りト云其云傳ヘテ聞ニ穴ノ内平ニシテ十
 四五歩行ケハ石門アリテ石ノ扉アリ夫ヨリハ底穴ニテ這ハカク奥
 ハリシ者ナシ今世穴ノ口油物茂リ生シテノルナラズ予按ズニ上世
 紀ノ謬作ヲ見テ天武天皇大友皇子此地ニ合戦アリシ此塚アリ
 一方ノ軍兵出テ天武ノ味方ニ屬シ大友敗軍アリシヨリ此所ヲ
 二方ノ里ト稱ス此塚ノ内何程カアリテハ三方出サセヤ後人三方ノ里ノ
 旧跡ヲ同ハシ此塚ヲ總シテ藏塚ヲ以テ先王ノ命セシニ方ノ里ニ
 混ス是國ニ旧紀ナキ故カニ方ノ里ノ實録外ニアリ

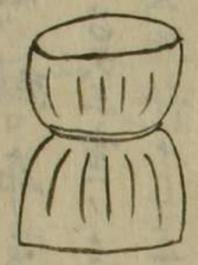
備中國下道郡山手邑古墳圖

東
 内廣サ八間四方程
 山東西間計高十五間平
 穴ノ口頂ヨリ五六尺下

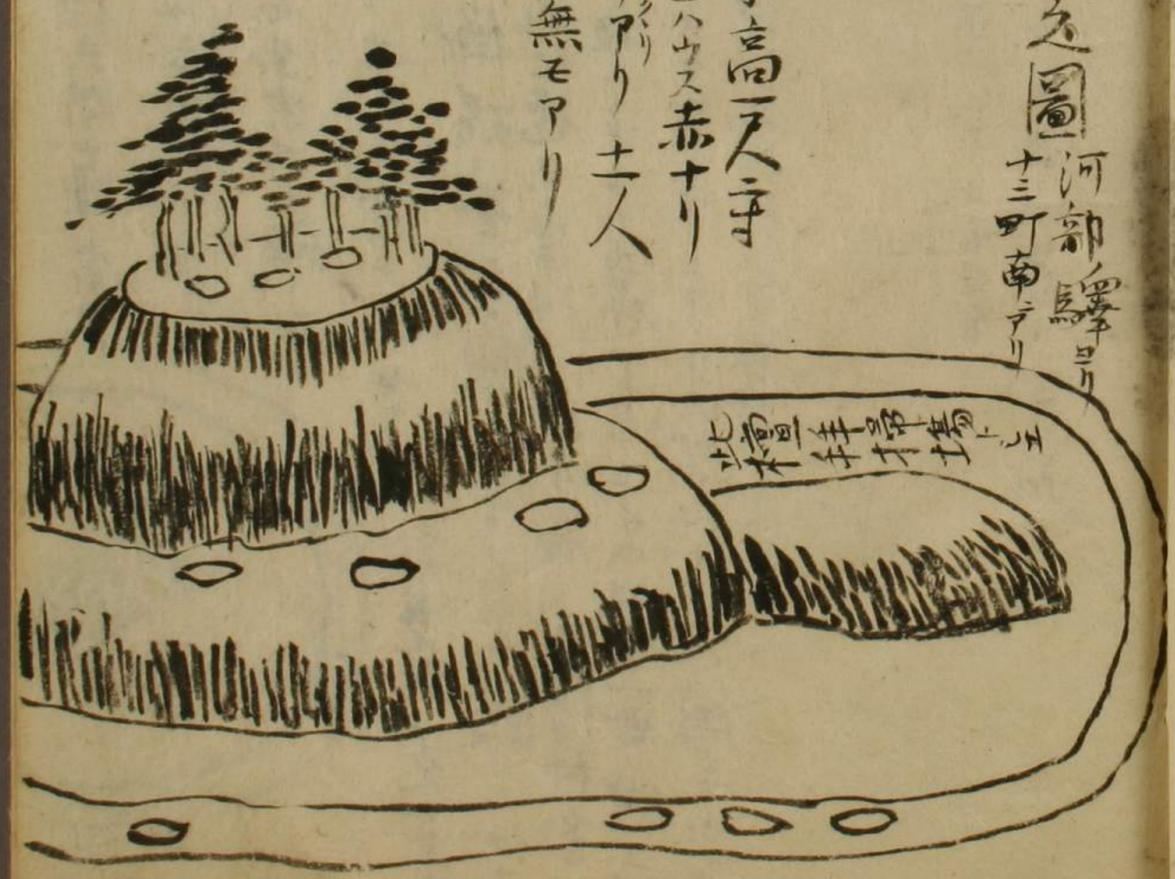


備中下道郡南山古墳之圖

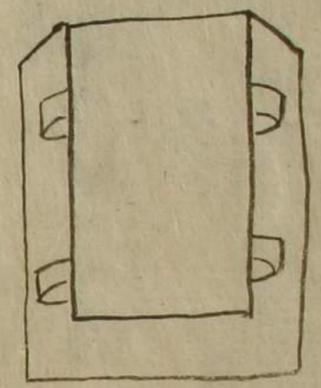
河部郡馬三十三町南



甕ノ口徑八寸高二尺二寸
素子焼ニテ色ハウス赤ナリ
圖ノ如ク帶アリ土人
云此壺ニ底ノ無モアリ



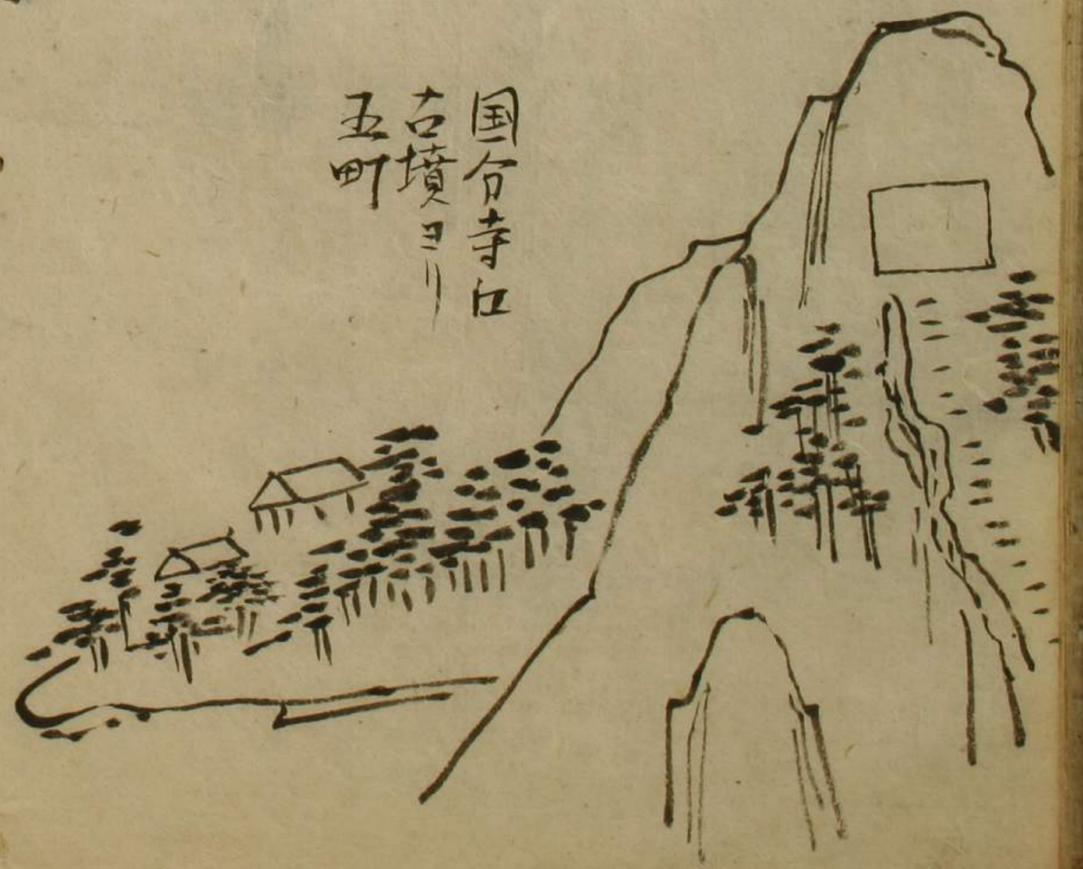
七層田井塚古墳



幅六寸余長五尺八寸ハカリ
糸ヲ通シ候ヤウニ穴ニナリ



国分寺江
古墳ヨリ
五町

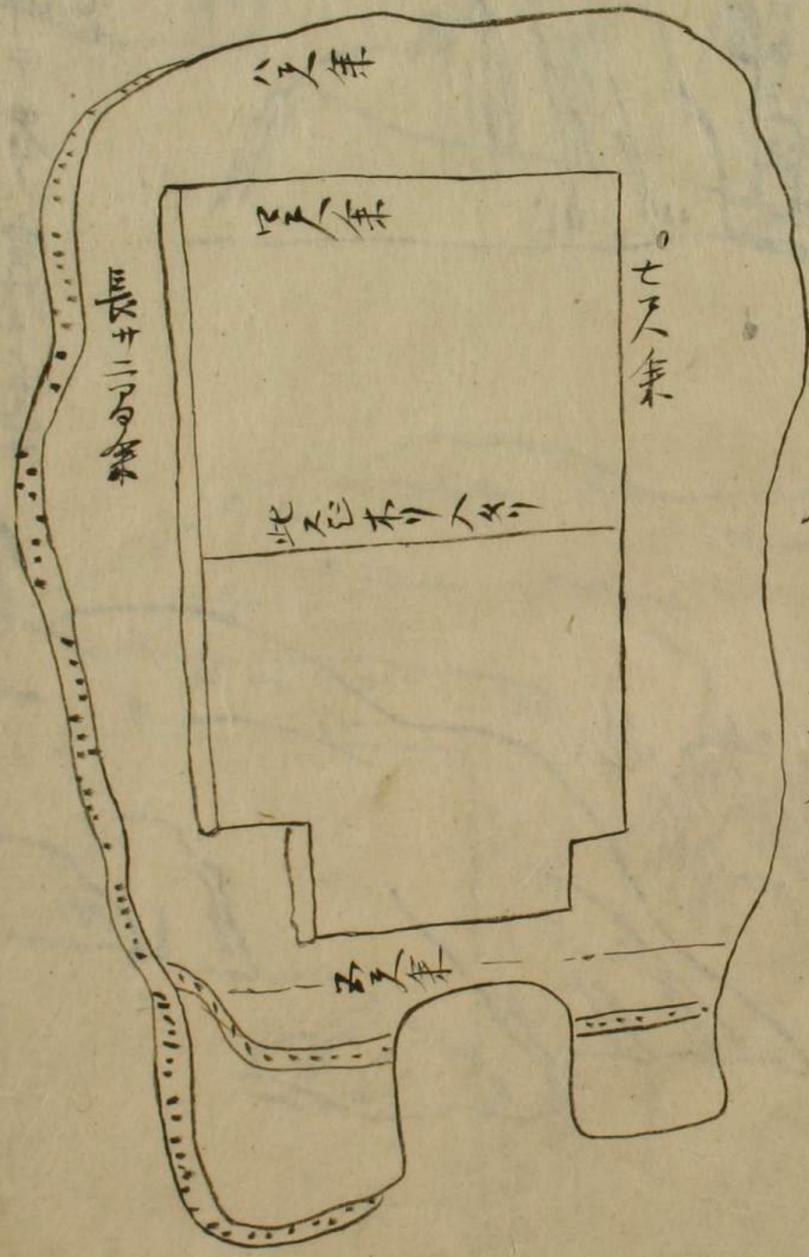


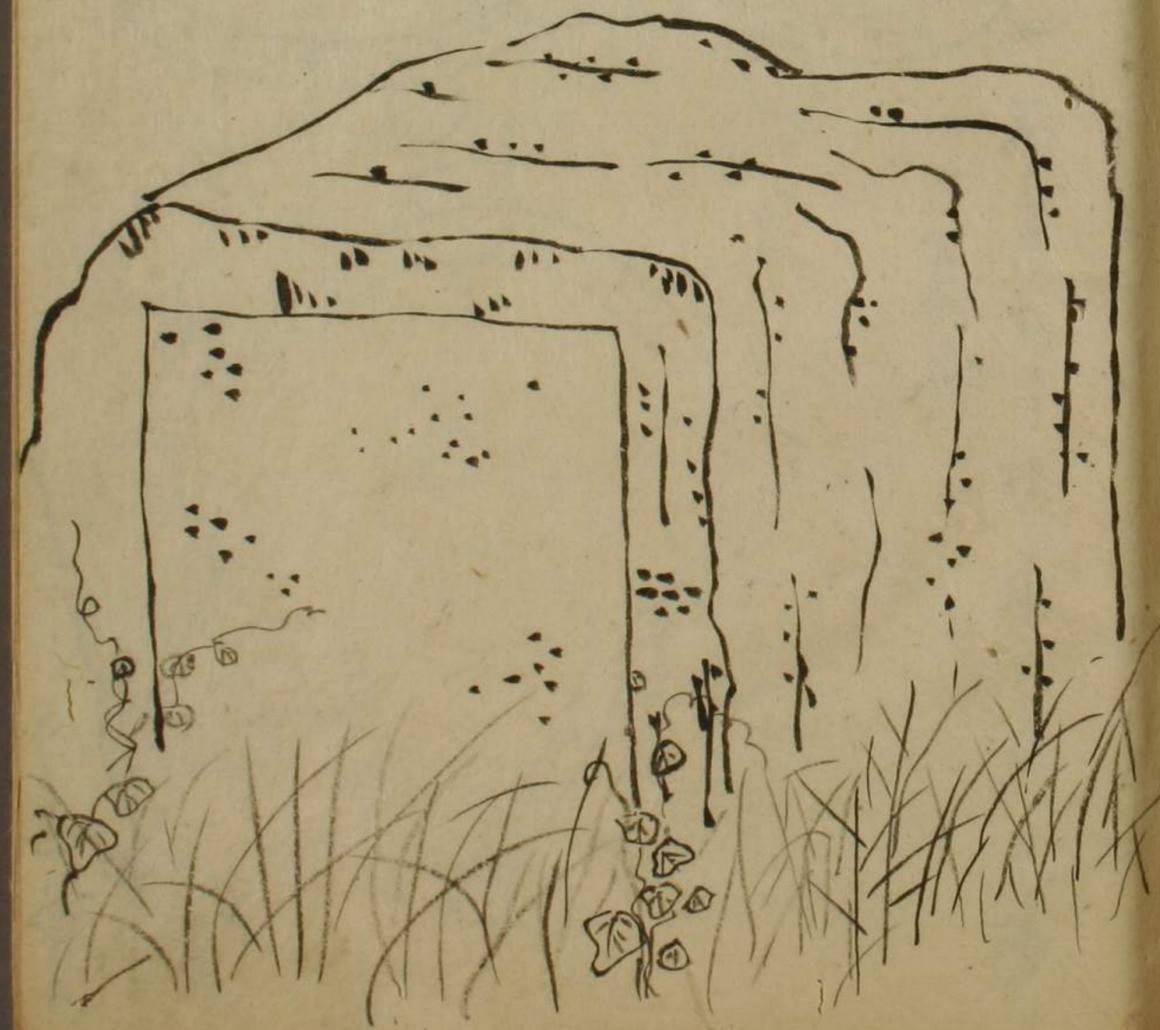
今有所ノ墳ノ高サ七間半 頂キ徑六間中壇ノ廣サ
 一間半周リニ百四十步 斬ノ深サ六尺又土崩埋ナキ
 塘ノ高六尺小判ノ形ノ如シ 固四百步余所々無ヲ布リ



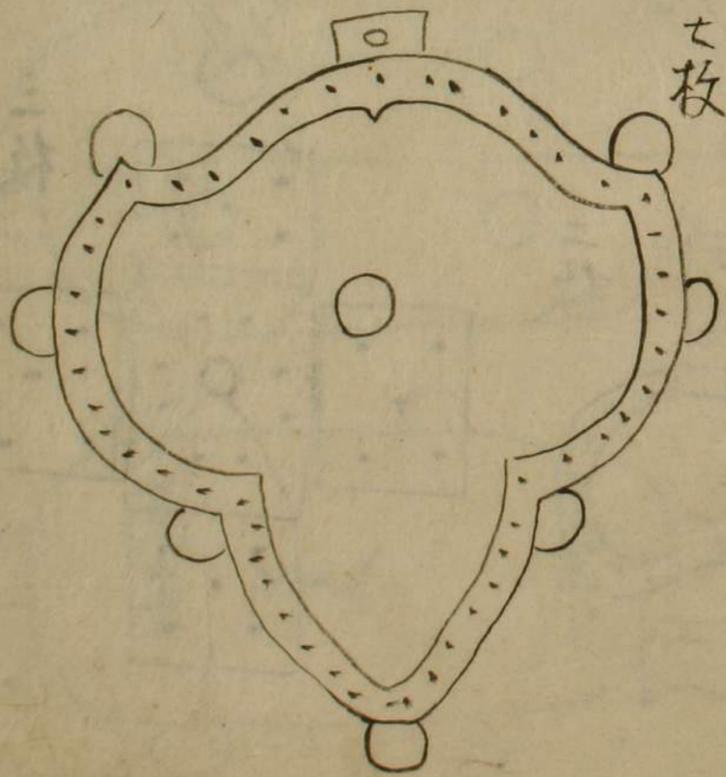
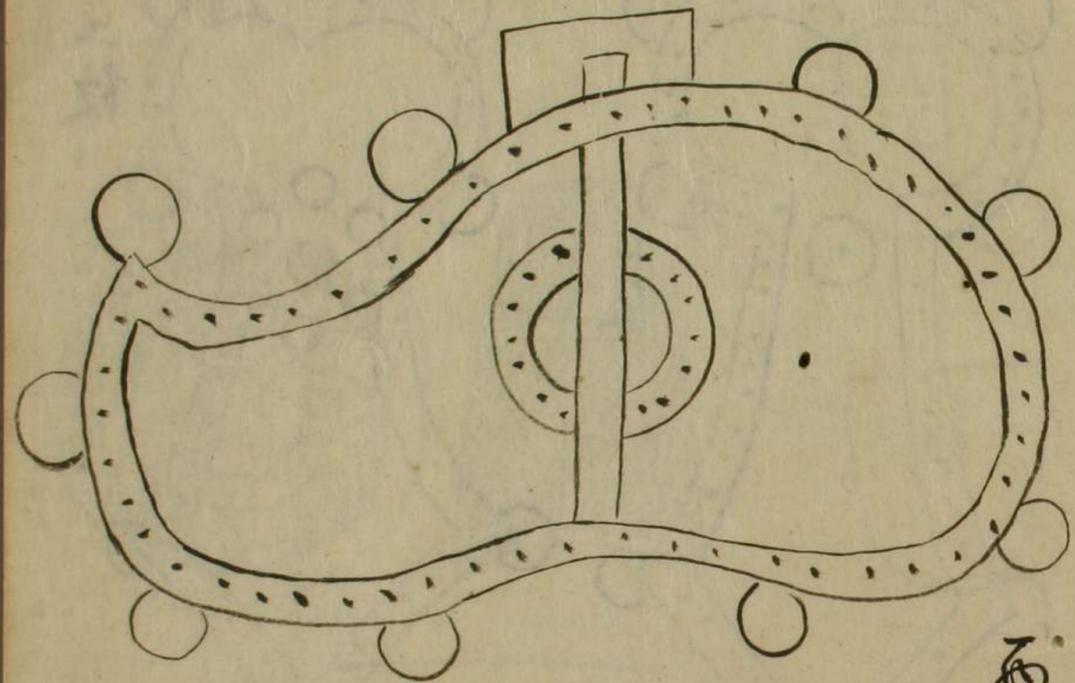
六七十年以前迄ハ七百モ有リテ土人千壺ト稱セリ 此墳見物ニ來ル者ハ
 樵夫收童ウカキ破リテ今漸殘ニ壺ニテ山下ノ土人此無ヲ小便壺ニ
 又ハ用ユモノ數多アリテ泉列仁徳天白玉法ニ詣テ帝ノ古墳ヲ辨セシニ
 此墳ノ如ク無ヲ布連タリ石無ノ取ト色トハ違アリトイハレ上世墳ニ無
 ヲ布シ古又王室ノ古制ニテウカキヘキニアラス然レモ古備國ニ天子ノ陵
 アルト云旧紀ナシ上世諸王室ノ尊キ人ノ古墳ナラニカ

和列橋寺ノ南十町程右ノ山ニアリ土人鬼ノ子板ト云
 大石ツツニキガメリ





同所通り在ノ方へ戻ルナリ
土人はヲ呼テ鬼ノ雪隠ト云石
一ツヲ工リタルナリ

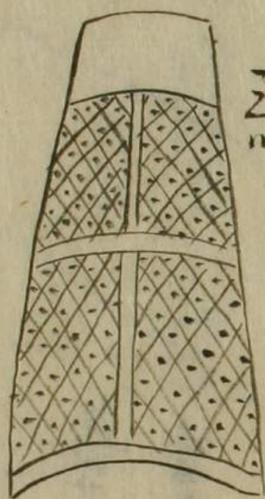
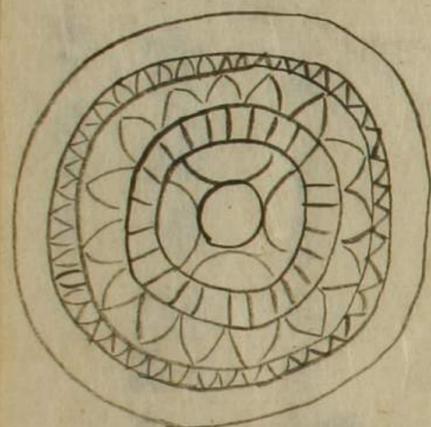


七枚

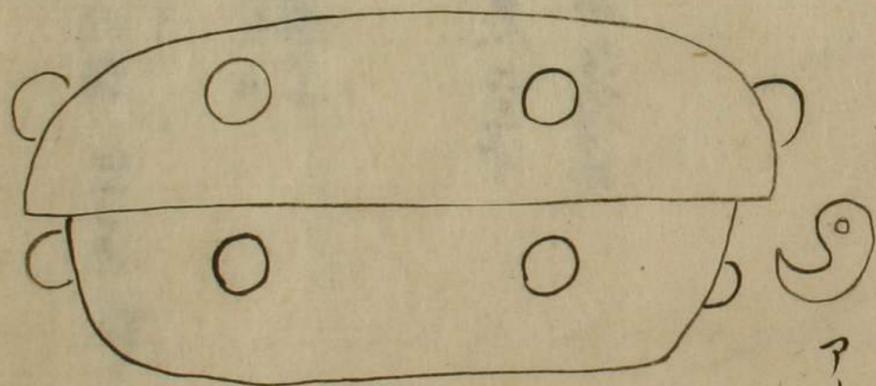
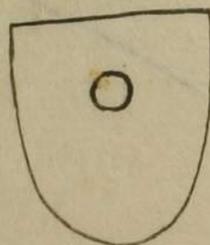
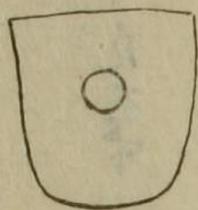
西上高なるの汗を固く之所より垢を
古銀の品



鏡

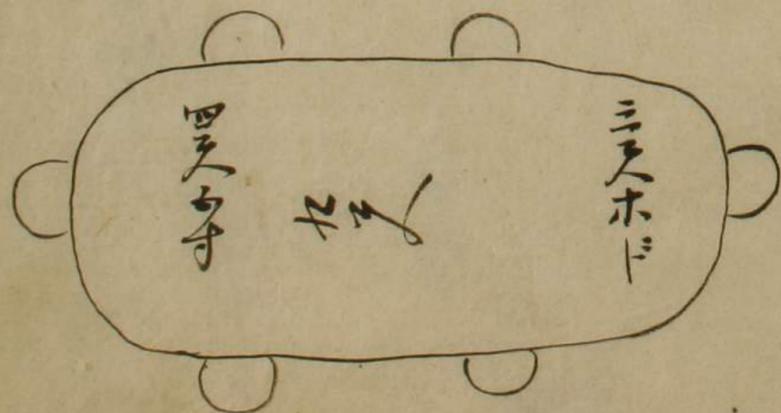


之

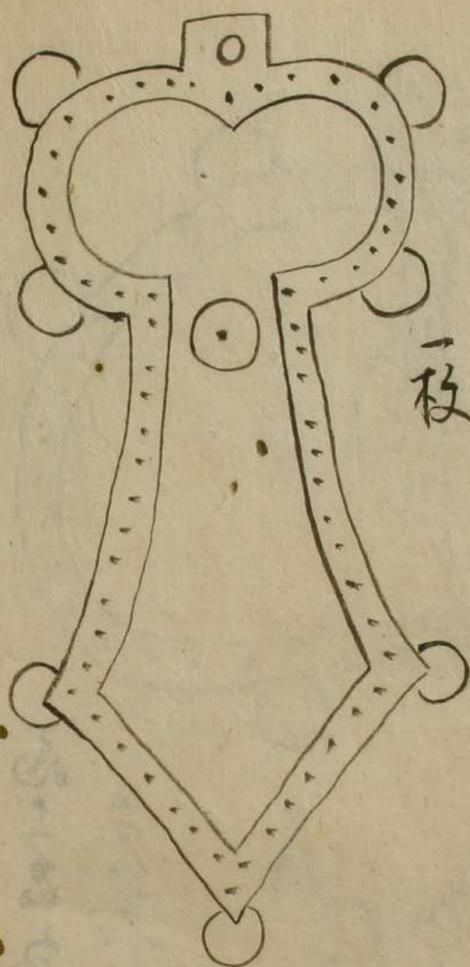


青キ玉ナリ
數多クシ

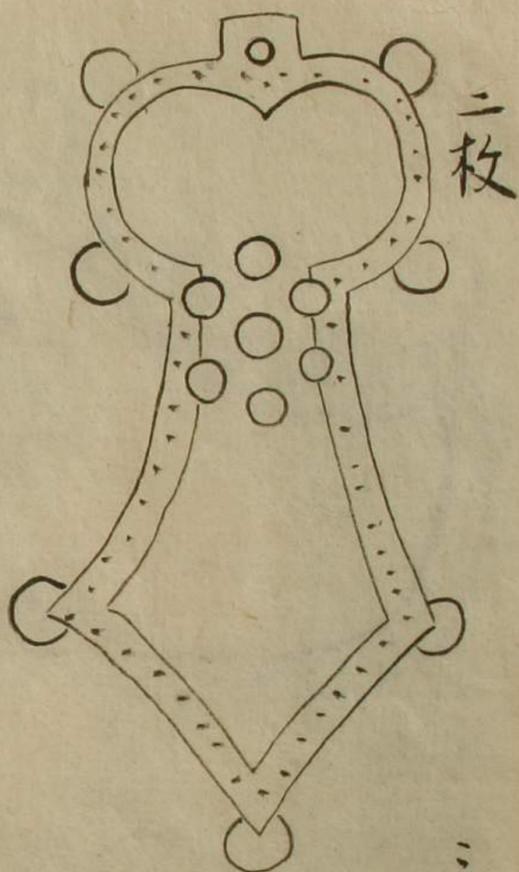
アノ色ノ玉



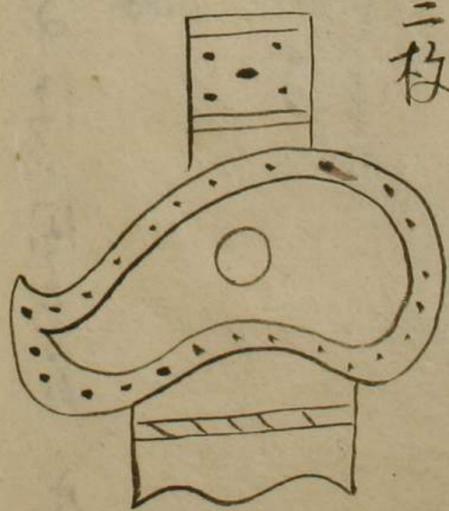
ルリ色ノ玉
數多クシ



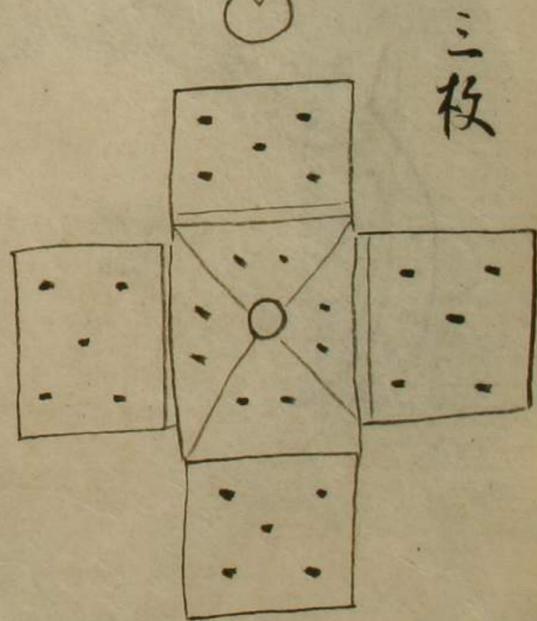
一枚



二枚

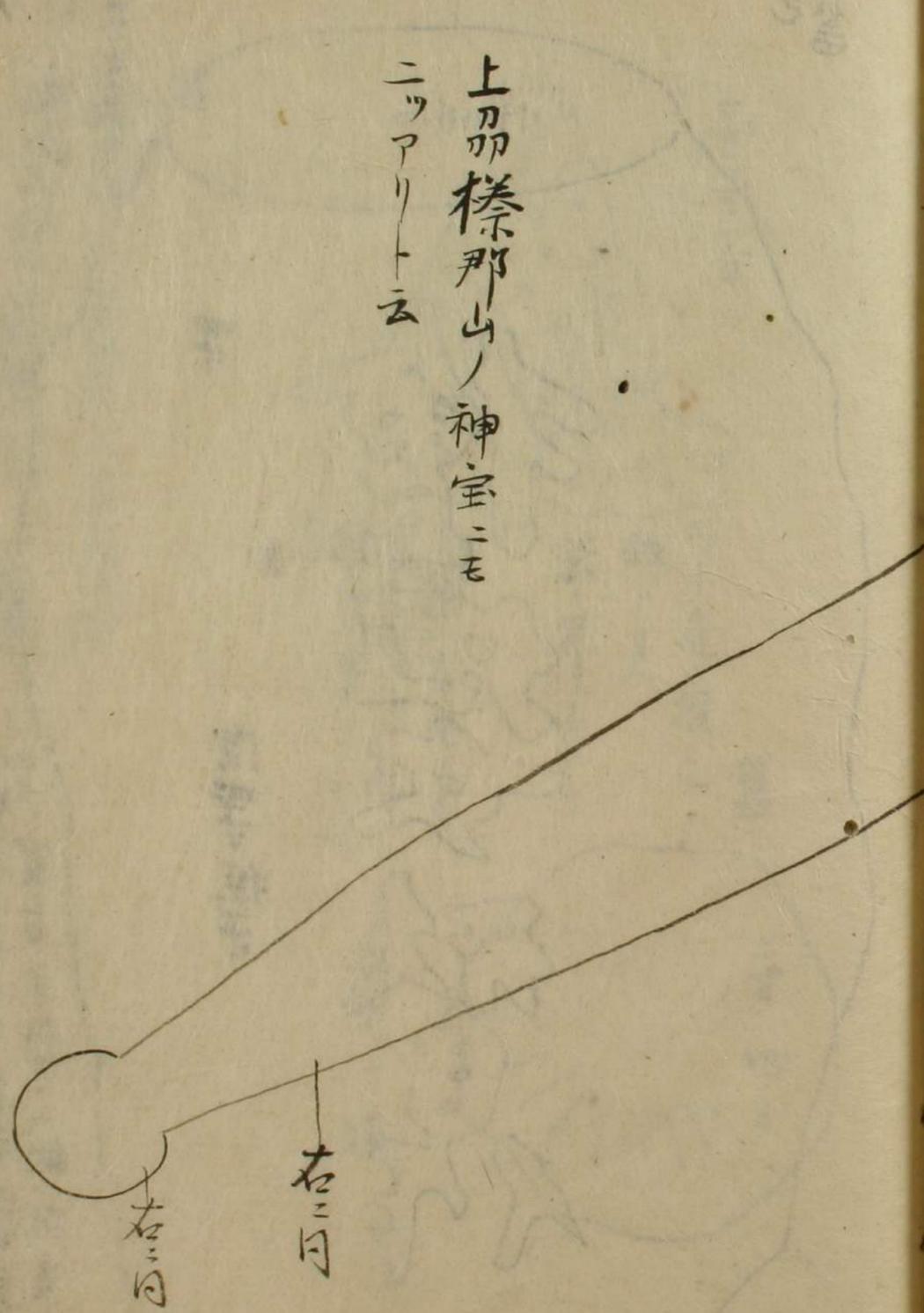


二枚



三枚

上品様那山ノ神宝ニモ
ニツアリト云



中ノ柄廿九寸

九三寸五六分

雷植圖

信品水内郡雷屋敷ト云知ヨリ
堀出タリト云

九三寸七分色黒見分石

御前ヨリ

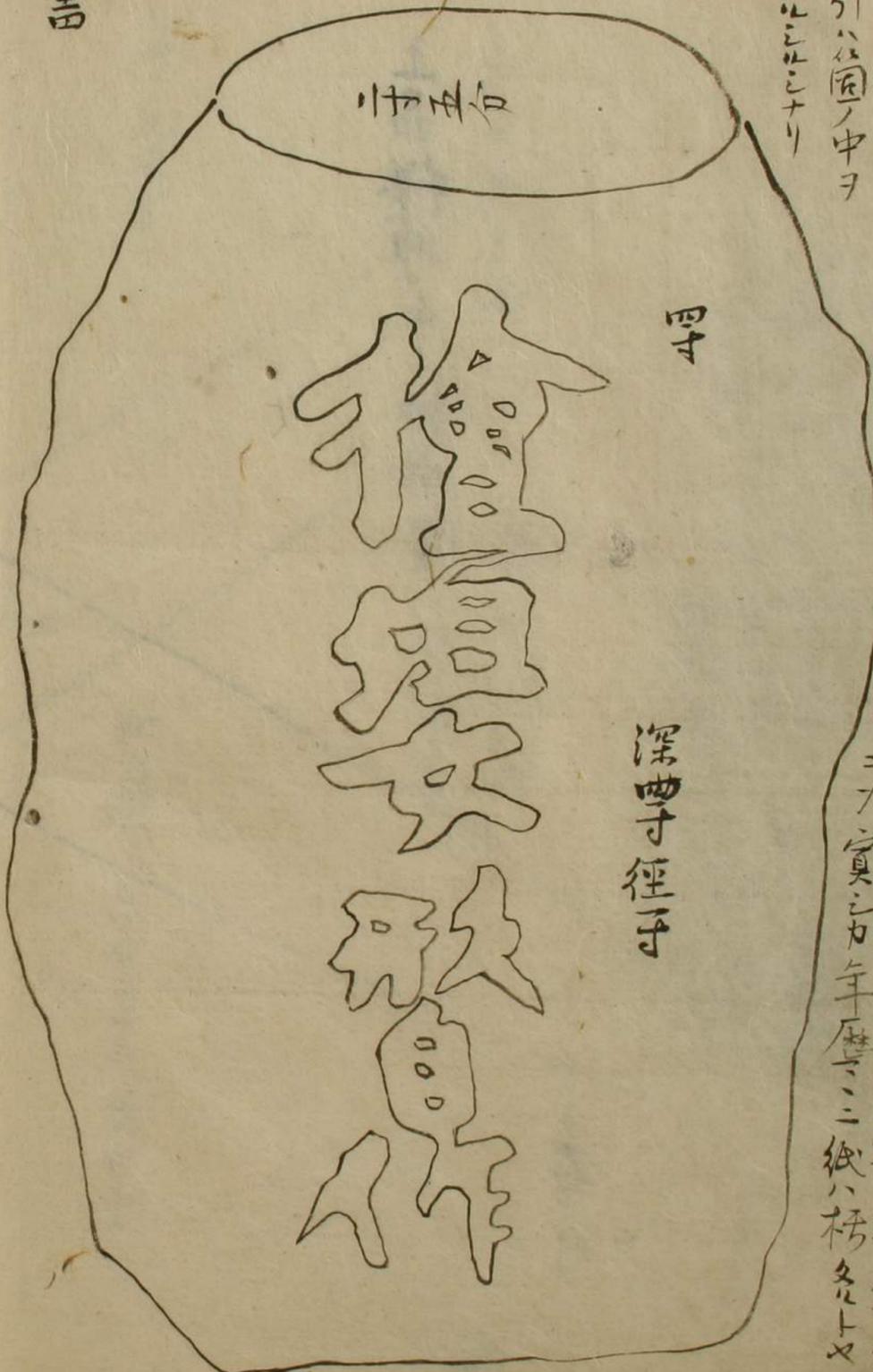
長廿二又二三寸

重廿八百九拾目

此穴深三三四分ニテ真中也

此朱引八箇ノ中ヲ
赤リタルニシテナリ

石色
如土如田



川田石

高

深四寸徑寸

高廿六尺二分

ウツホノ關キ所ニ像ヲ寫シテヨリ下底ニ通リタル
ウツホアリ灰煤ノヤウナモノアリト云考ニ可集經々十
ニノ實ニカ年曆ニニ紙ハ柄多トヤ

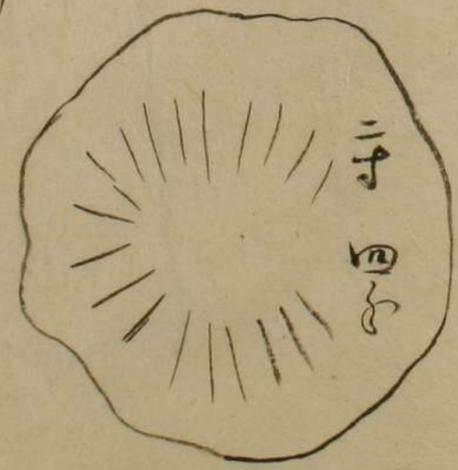
檀短女歌作

川田石

高二十二分



蓋



二十四分

蓋ニテ造リ焼タル
物ト見
紫ニ黒キ色アリ
朱圈ハ小キ宛アリ
考ニ扇ヤウノ物ナト
持各力宛ノミノコレル
ナラニ

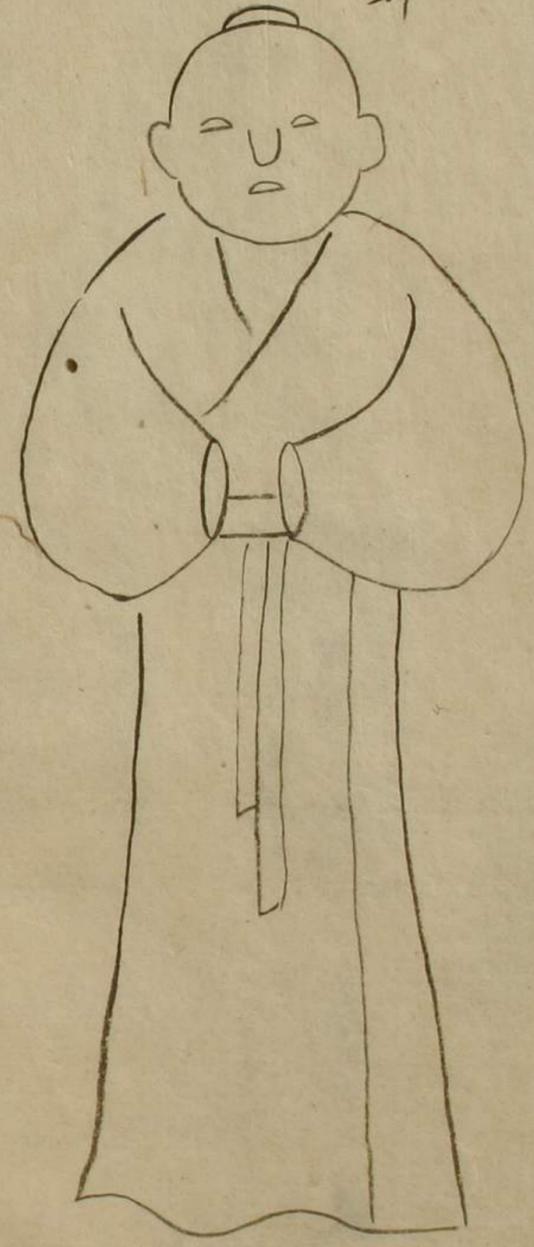
唐金ニテ造

右

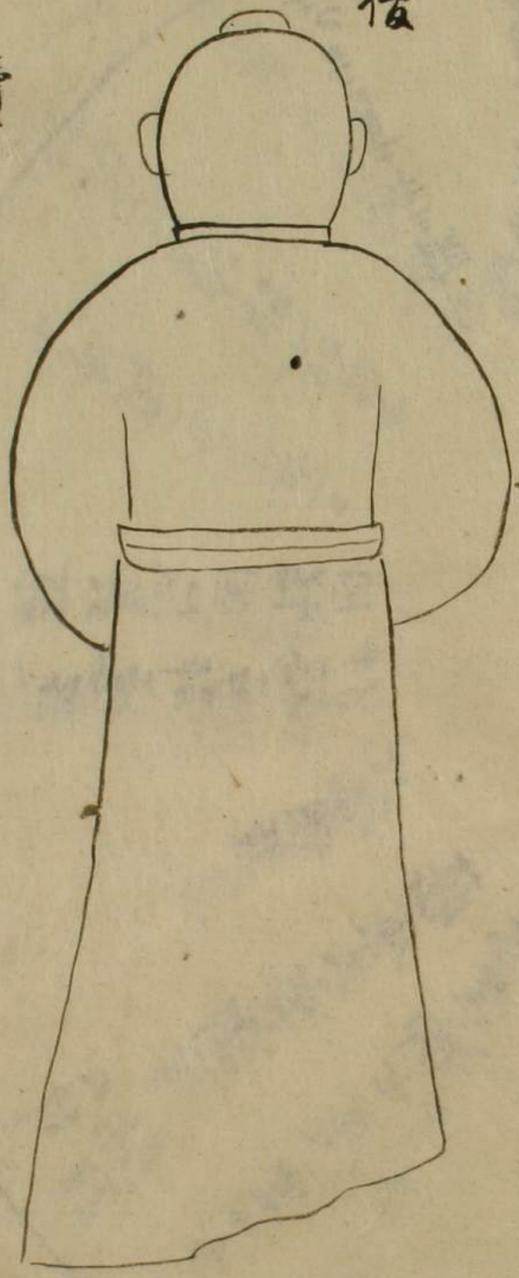
天明二年壬寅四月八日肥後国
岩戸山西亞巖洞ノ山嶺ヨリ掘出

河内國石河郡山中古墳填物圖
石人

前



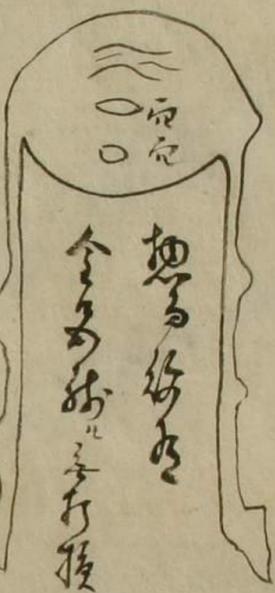
後



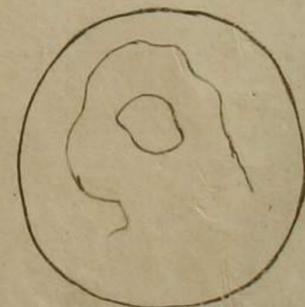
續日本紀曰養老三年二月壬戌初令天下百姓
右襟之形則右人物蓋養老二年以前之物歟

播磨の荒原郡今尾村打土村河保親王御簪

打土村支配沖林中より獲るる鏡七面
 正徳三年三月廿五日打土村
 加ららるる鏡六面あり



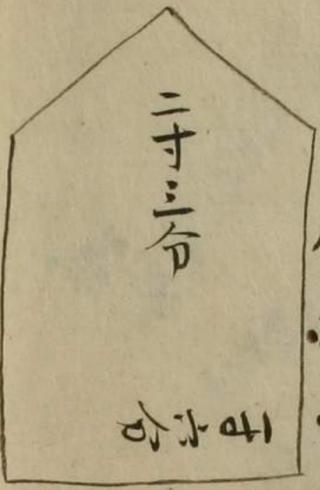
加らるる鏡
 今尾村支配沖中



七寸面
 河保親王御簪
 外二面
 五寸三分

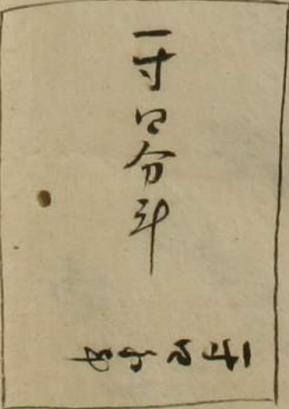
石葺石 親王廟の逆さより獲るる

右より獲るる



二寸三分

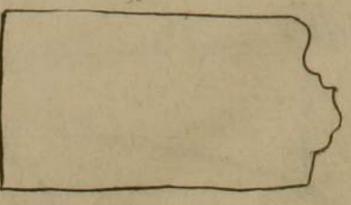
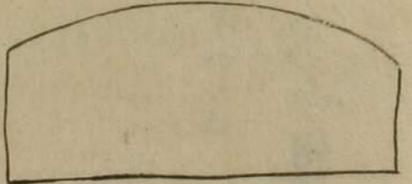
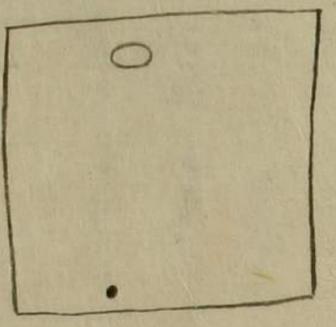
外二面



一寸二分

外二面

河保親王御簪
 河保親王御簪
 河保親王御簪



御鈕二振 括新

親王様村ノ小町上三層様と稱也
 正徳三年三月廿五日
 河保親王御簪
 河保親王御簪
 河保親王御簪

今井俊之 今尾俊之 今尾村 今尾村 今尾村

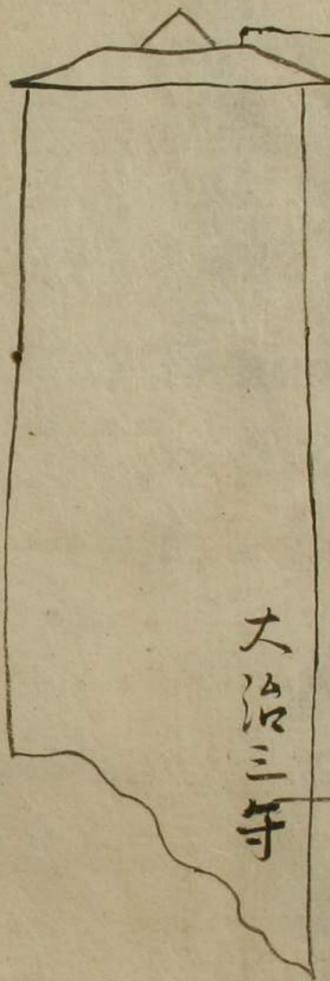
今山組

八幡拜殿之側有松樹一曰風吹千々丸其下二以好石カフト以平石の底以炭埋之

此知ク井ノ分明ナラズ

此年ノ字亦分明

大治三守

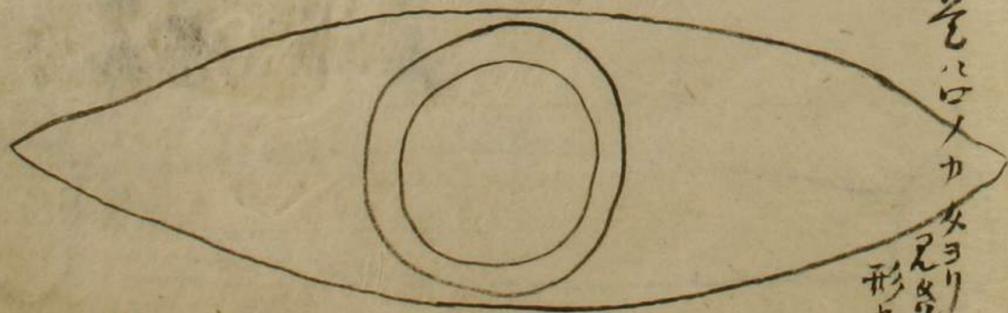
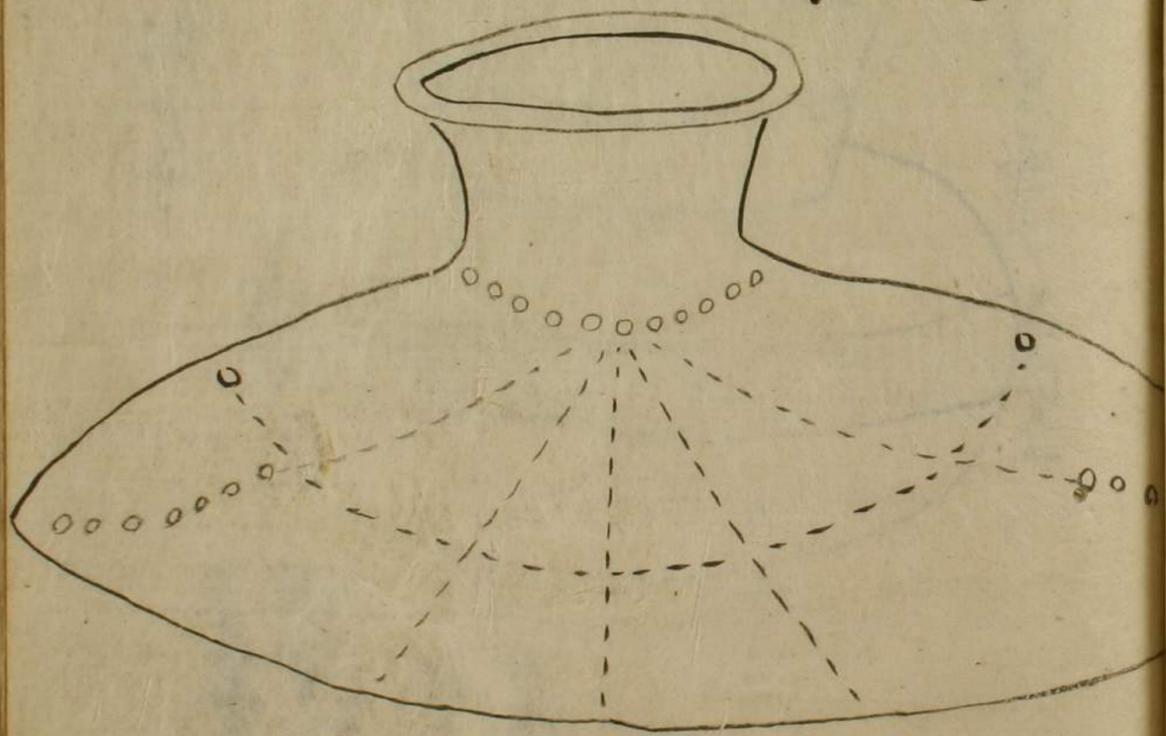


此蓋トオボシキモノトレカ子ヤ

今山組御屋形

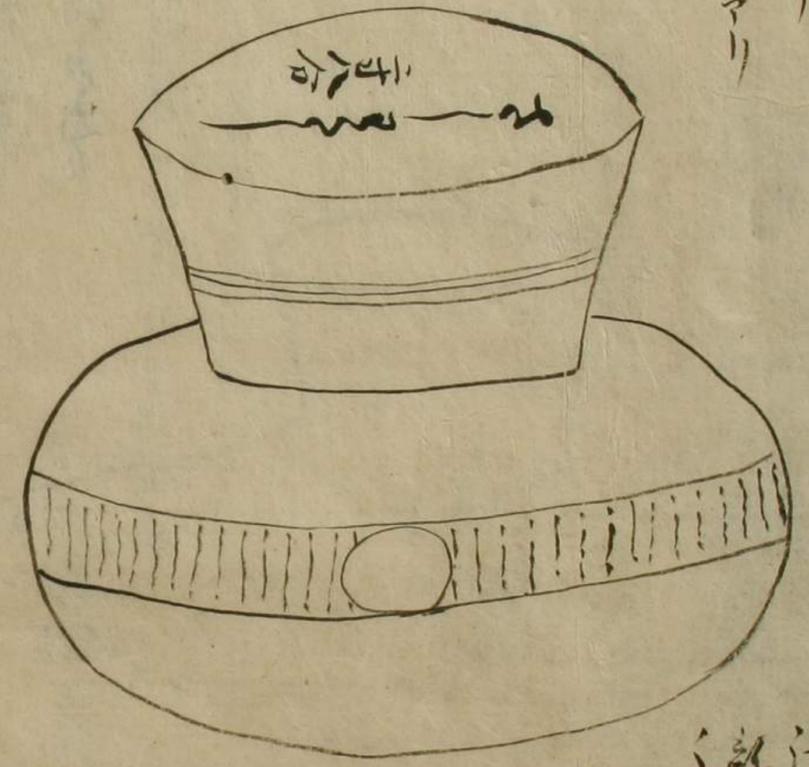
法皇御羽別ノ石返
奥羽多ノ海山カカ

一カ玉ハツ先
スヤキノツ木



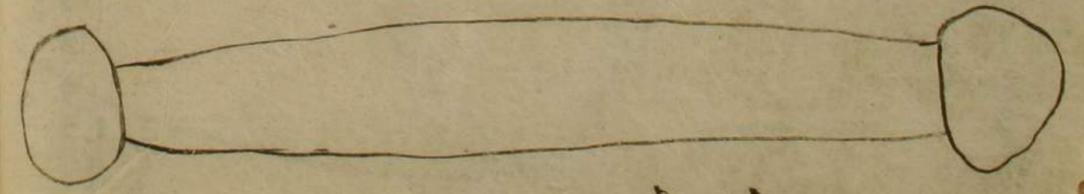
是ハ口ノカ
カヨリ
形カ

丹波桑田郡津子社カモ
 三方玉のツクリ
 高の方ニ定ツマリ



江戸栗本
 新堂村地中
 之ノモ

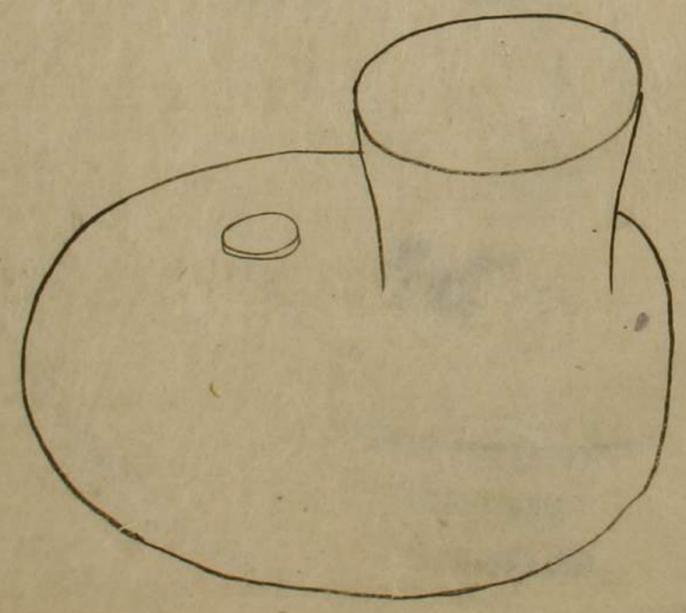
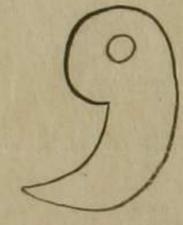
江戸山向
 木肉成彦



江戸山向

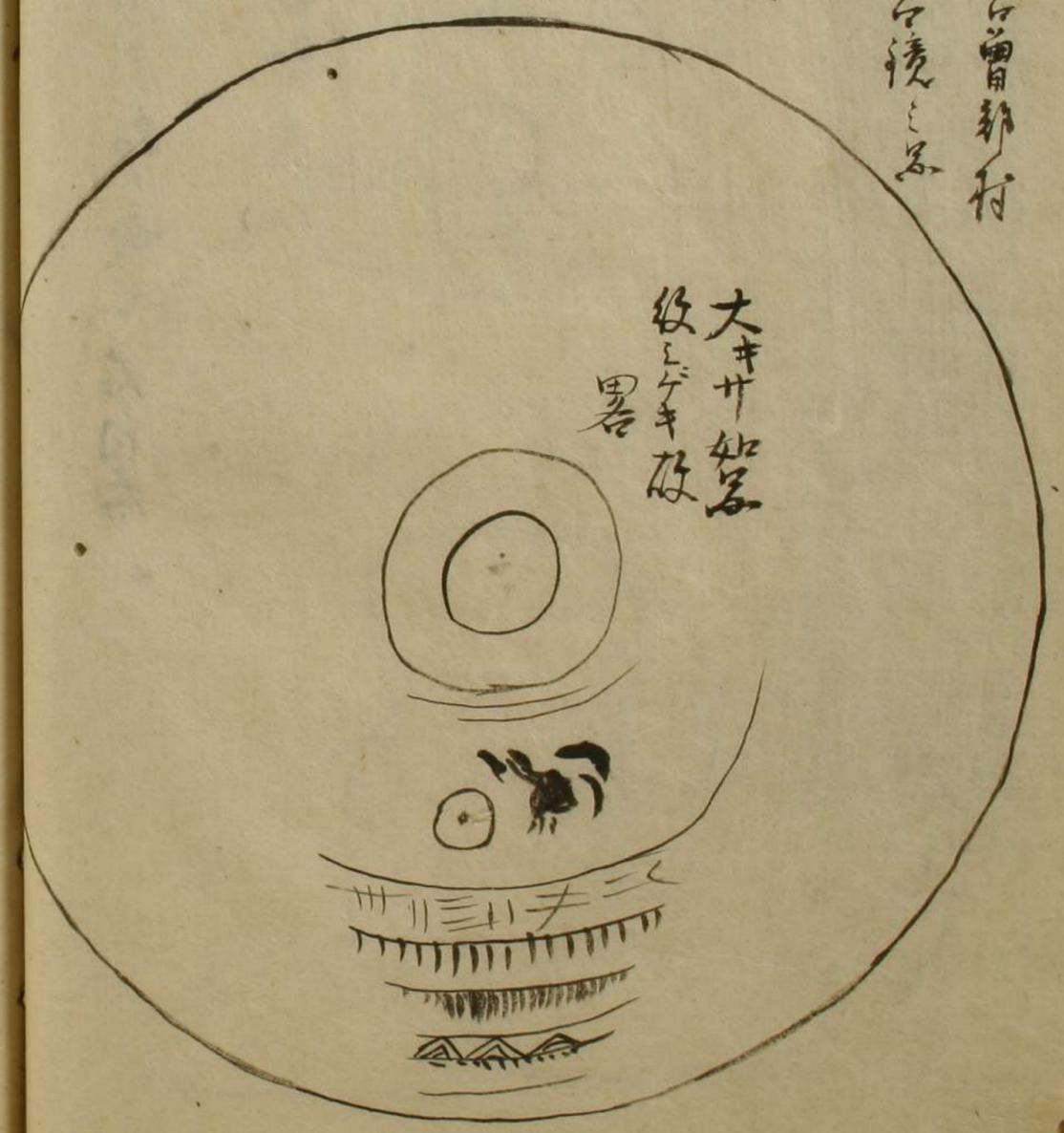
丹波桑田郡津子社カモ
 三方玉のツクリ
 高の方ニ定ツマリ

水筒ニカモ
 ニツクリ



橋本寺石蔵古鏡
伊勢守石蔵古鏡

此年高柳屋
伊勢守石蔵古鏡
時許中得



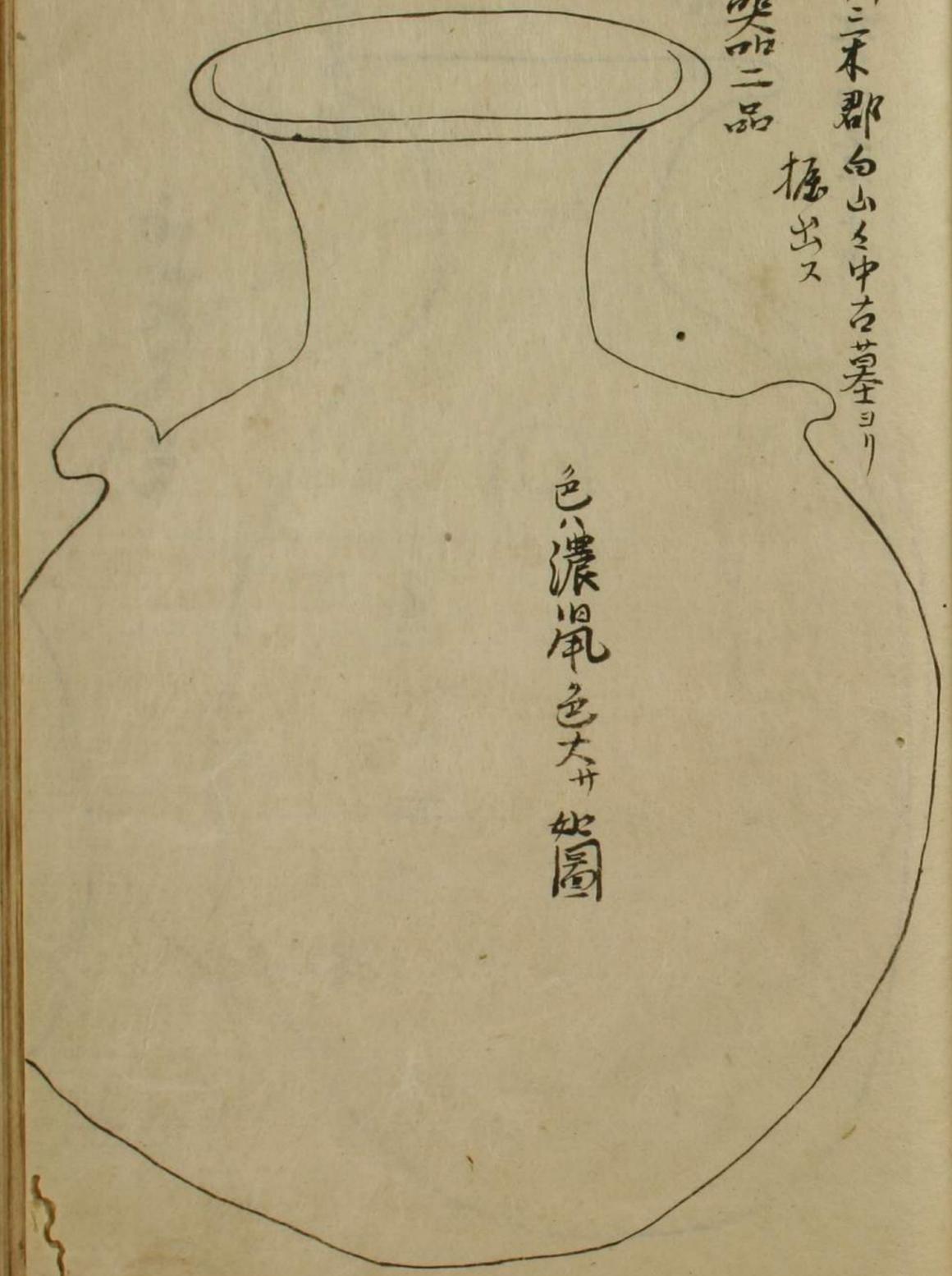
大井廿如家
紋と千如
畧

伊州三木郡白山々中石蔵ヨリ

陶器二品

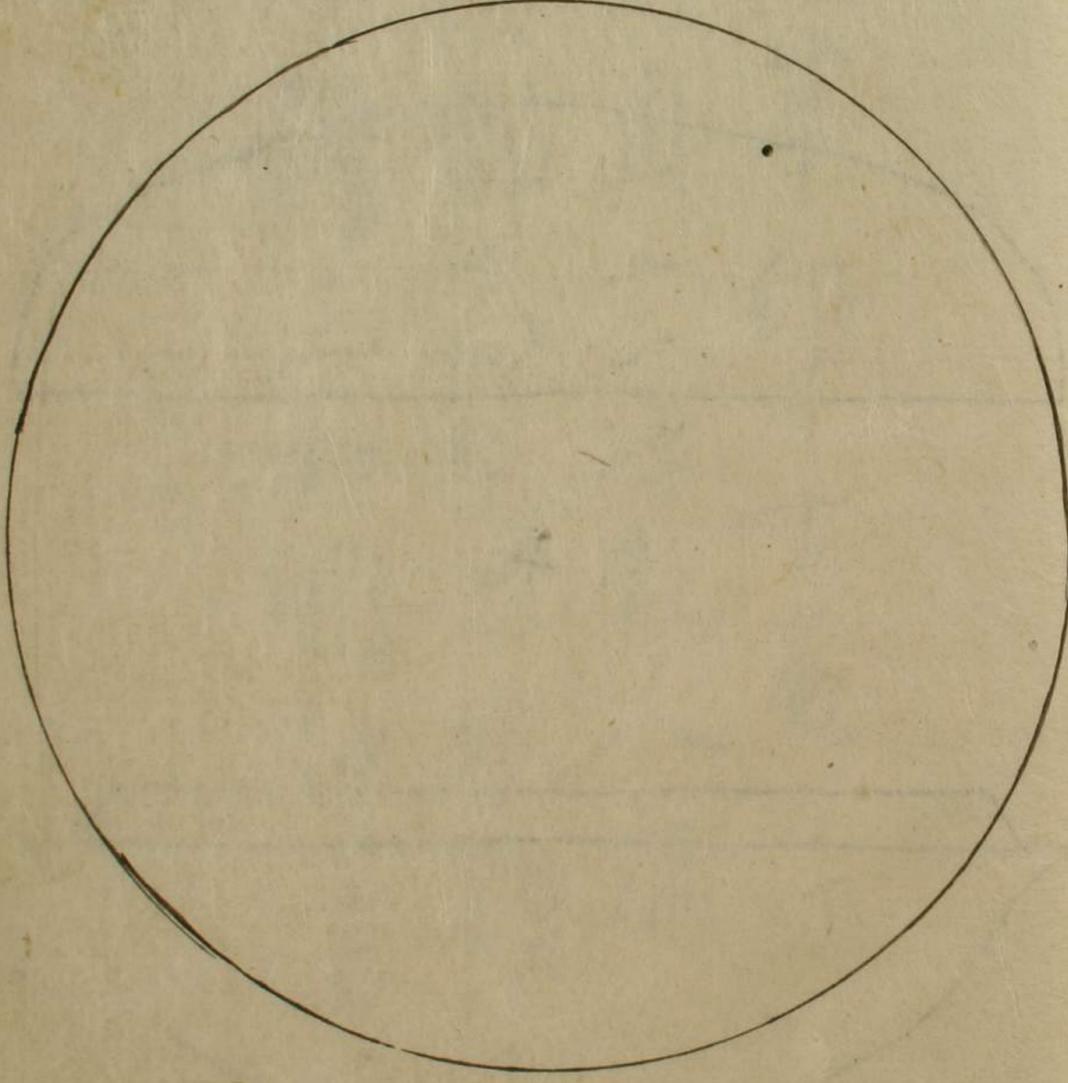
掘出ス

白



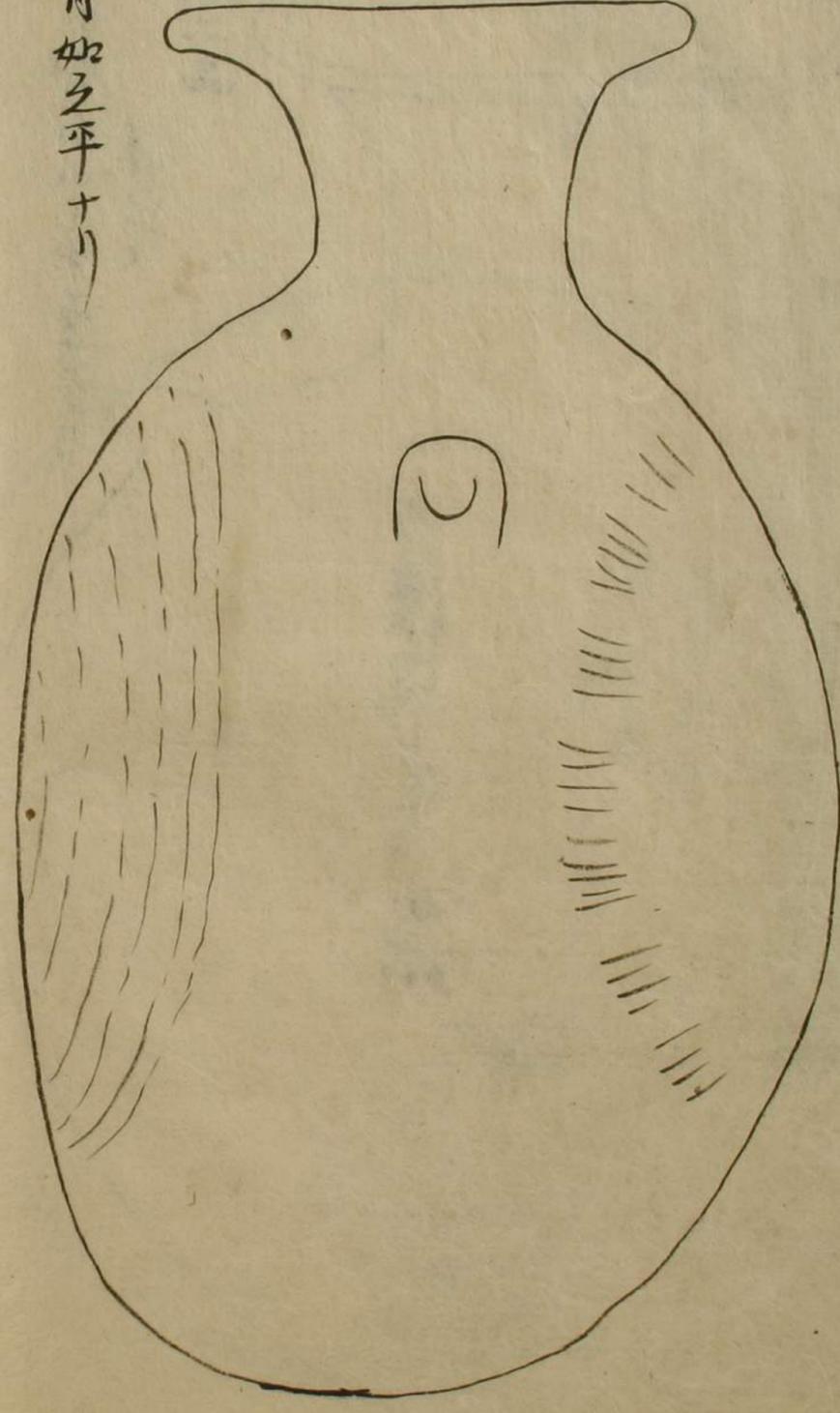
色濃嵐色大井如圖

土器色濃
原色大サ如圖



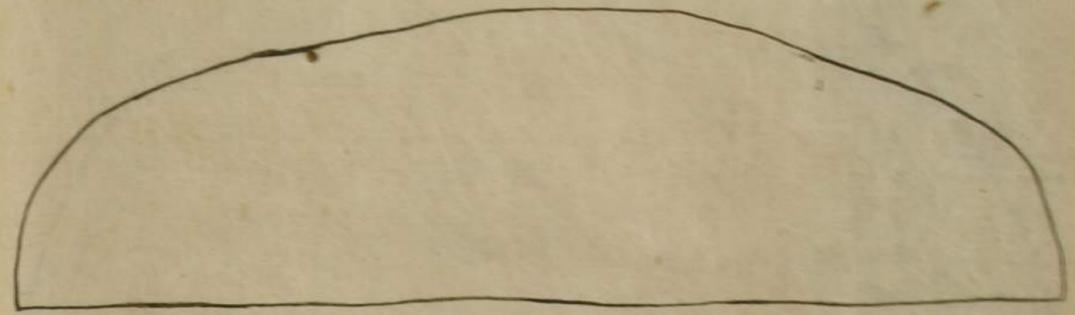
蓋白

背如之平ナリ

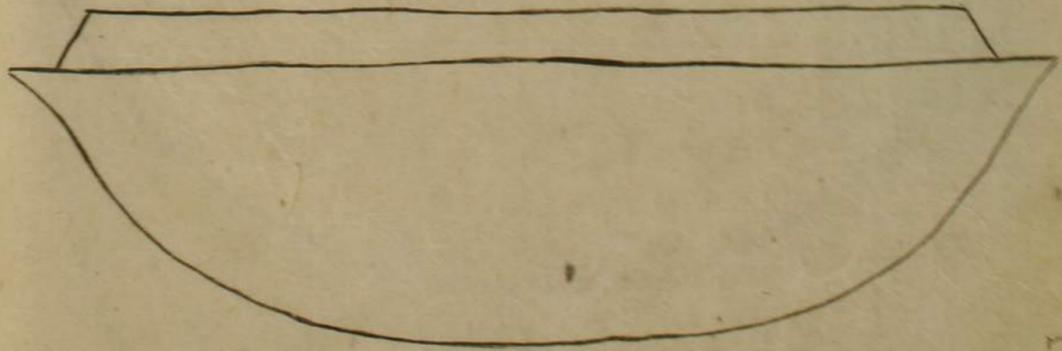


白如此ハリ出

蓋橫



身



浪華 邱井古巖集
東魚 玄澤散人藏
東都 高梨昌本摸
伊豫 三和惟仲書

！
蝦夷春蠶說

竝地圖

蝦夷春蠶說

トソサンキチ今年病テ死ニ近カリシニ其病ヲ治セン
トテ薬ヲ請ケルニ故役人竹田勘平薬ヲ与ヘケルハサ
ニキチホトナク死タリトテ其子供イキドオリテ乱ラ
作セント也カノホニシト云ハサンキチノ子ニテ猪口
也日比弓ノ上手ニテクナレリ地方ノ曲者也乱ノ本此
ニ始ルト云全体此下蝦夷ノ場所ハ大抵ハ松前ノ飛騨
屋所右御門方ニテ持テ即クナレリモ右飛騨屋ノ場所
也此飛騨屋蝦夷介抱ノ仕方マシク薬テ夷人イキドオ
リ去年比ヨリ度ニ此躰ニテハ行末蜂起モアルヘキ由
申居レ氏支配人共一向聞マヘス遂ニ此度彼薬ノ一件
ニコトヨセテ乱ヲ起セント也即クナレリ運上屋夜討
シテ役人竹田勘平ノ寢タル夜着シ発キタレハ勘平モ

不意ノ変ナレハ夕ヤレク附子鎗ニテ一突ニ殺レタリ
其外通辞番人適レ出シ皆弓ナトモテ射殺タリ大通丸
ハ飛騨屋ノ荷物載タル船ニテ今ウルイト云所ニテ往
レニ是モ夷ニ夜討セラレテ残スレズ荷物三十割掠セラ
レタルトソアツケシノ支配人助奮門ト云者彼容子聞付實不ウタ、
サントテシツニテ往ニ又運上屋ヲ囲ニテセレカタクエカノ下へ
潜居スルニ向者カ足モテ引スリ出スモノアルエトテモ叶スト思タ
六助奮門連キタル蝦夷ニテ是非ニクヘシトヌメ遂ニ山路ツマテ
夜中ニシラヌカト云所ニテ匍匐シテ込タリ路アリ[遂]追打レタレ氏
夜ト云朝露深ケレハ幸ニ遁ヘタリ此容子聞傳ヘテ飛騨屋ヨ
リアツケシ一合船ニ之ニエ匠其外番人トモ皆散々ニ逃帰タリ
蜂起ノ地方ニ往テアリシ人凡七十五人也右其中 equal テ彼方

止置タル者三人有ト云 大通丸ニモ水手一人水溜桶ノ
中ニ潜匿シテ死シ免レタル者ナリト 彼助右衛門並ア
ツケレニアリシ和惣兵衛ナトハ右案内セシ夷人召具
シテアツケレヨリ早々船ニ乗リテ松前へ去六月朔ニ
着タリ松前城下大騒ニテ彼死者ノ妻子號哭ノ云戸々
ニ湧百万遍ナト カレニキト也尤南部地方ノ人モ
大分其中ニアレハ南部モ大騒ノ由ナリ城下鳴物停止
甚静ナリ八日ニ彼飛彈屋ニ来リタル夷登城シテ萬事
申渡ナトアリタルトゾ是日ハ城中ニナ甲冑シテ武器
ヲ陳子紫幕ナト張テ吹貫ノホリナト靡カシテ威嚴ヲ
張タリソレユヘ夷モ戦ノ栗トメ益カイトマ御味方
申ト云ト也カイトハ夷全昧此夷ハ上上ノ石狩ノ夷ニテア

ツケレヘエキテ運上屋ノ飯タキナトシテアリシ故始
ヨリ此方ノ味方也此エソ出船ノ砌竊ニ彼船ノリテ後
ニイテハシカクノ故此船ニ便船申スト云テキカセタ
リ勿論アツケレノ夷共モ味方イタスト云ト共コトツ
テアリテ松前へ申シ上タリ此夷ハ先日大口手船平壽
丸ニ託シテ石狩へカヘシタリ後登城ノ節カサリタル
ノホリハヒナ五月ノノホリニテ丸ニ四菱ノ紋ノ下ニ
關羽或ハ金トキノ熊ヲオサヘタルノホリ也是ヲハ夷
人ノ知ラヌヲナレ凡人間ノ目ニハ何トカオカシキト
シ城下タンク武器ノ用意アリテ松木筒ノ大銃ナト作
リテウタテサワグ也去六月中旬比ヨリ追々城下役人
モ下夷地へ物具シテ赴ケリ凡三十人計モ行タリ彼

ナレリヲ説開タル通辭三右衛門モ此度ハツレラレタ
リ尤モ鳴物モ六月中旬比ヨリハ格別ノテモナキトテ
三弦計許サレタリ大鼓ハイマタ許ズ何ノノヤラ一向
下ラス候蜂起始末右ノ役人見届来マテハ委細ニ分ラ
ズ先其畧ヲ聞ニ任セテ記スルノ如左

右松前偶居新山健藏ヨリノ閏六月三日出書翰

寂上徳内聞旨

コカム シヤツケ 今モスコビヤ保セ有ツノ地夷言カハ肉ノノ
ケハ乾スヲコノ地ニテ多ク^{ヒモ}乾肺ヲ作ルエハ名ウト云フモスコビヤ人ハカムサスガ
スラサスカハニ言国ノノナリ此ノ云キタカイ稱スルカハシカトナリ

○ウルツブ ラウコ^シ信ノ^ノ此^ノ信ノ^ノ先^ノチリボイト云信アリ其地ニ名水
アリ夷人カモイ^神ワツカト云モスコビヤ人キスロ^水ノタト云味耳ノ
如酒者人此^地至^シハ痛飲メ飯^ルヲ忘ルト云フ^海海船也
持^ルルヤ^ハヤ^ハ海^ノ邊^ノ者^ハ水^ニ及^ルトナリ

○チヤンヲ取ル木種^クアリトモスビヤ^ノ液^シリ^キ其^中シユレグトテ礎
造^ルルヤ^ハ種^ノ木^{アリ}乃^チテ^トウ^ヒエ^ルヒト云フモノナリ此^ハ阿^ノノ^本ナ
ル^ニ且^テア^リコ^ノ所^ニモ^スコ^ビヤ^ノソ^ノナト云

○徳内^ノ通^シ遊^シモ^スコ^ビヤ^ノ人^ヲシ^メラ^ンド^ロヘ^イイ^ジエ^ト云^フコ^レノ^日
本人^ハ信^ノモ^トキ^ニ種^ス徳^ノ奴^ノ後^ノ多^クノ^名バ^ゾヨ^フト^呼ス^エツ^人ハ
イ^ジエ^ト種^ス地^ノ信^ノ見^セシ^ニ其^ノ名^ヲマ^チク^セス^カヤ
ヒヨウガウヒヤト云レシ

○エトロワ^ノハ^四十五^度ヨリ^七度^トヨリ^丑ニ^アタル^用廻^ニ百里
氷^海ナリトナリウルツブ一名^ラウ^コ所^ノ信^ノ名^ヲモ^スフ^ニ魚

ノナ松ニノ表

コモコビヤ人支那ラギタアスコイザールスト云フ韃靼

ヲ「マシゾーリア」ト云

金

○アベ赤銅 アラフブスマメーキ

。度法ノ名をカ油をらるる名は人ナリ信長ヨリ

あはれノ名をカ油をらるる名は人ナリ信長ヨリ

寛政元 己酉 丑月

雁夷濫動記

惟夷地邊動之字也

寛政元酉二月初六日松前城下老高人
武川久全清例年之通河相取頼
惟夷地邊動之字也
余と治平相知之字也
此より

石武川久全清例年之通河相取頼
之由也
田名記大如互所之万所
其

其

一 摩多ろる 永江之と 教へる 宗名於
 能夷地 夷古及 亂陽 毒之 陰志 記
 申之者 害於 凶相 等 石 牙 隣
 同之者 害之 尚 願之者 在 教へる 害山
 事 四 名 部 表 付 友 新 不 表 害 後 不 記
 右 之 以 身 早 中 心 一 年 山
 一 支 記 不 在 所 以 百 姓 在 死 於 武 以 爲 請
 三 支 雁 水 渡 世 例 是 如 能 夷 地 場 所
 兵 戰 於 老 帝 年 之 以 致 兵 不 中 心 不
 也 湯 不 河 角 能 夷 古 礼 坊 之 有 有 在

一 之 面 之 害 於 類 宗 之 於 山 記 之 近 年 内
 大 和 村 之 志 者 一 其 新 換 之 在 介
 新 也 之 在 之 也

- 一 クナシリ 一 ニメキコフイ 一 トウフイ 一 記フニツ
- 一 シベツ 一 千九ノイ 一 三ノ子ベツ 一 廿キノイ
- 一 コルニツ

右九ヶヶ地 澄劫之 能夷地

一 武川 久 清 夷 地 場 所 支 記 人 并 害 之 所
 細 子 支 記 不 在 松 前 介 宗 和 山 人 之 記
 久 清 之 松 大 通 九 宗 合 之 有 在

那有少孫人ノ姓名實ハ不知内久清
付大加助をムル者ニリツイ
中亦之右邊助ハ見在しノ野ニ
一其比少新ノ名清下抱之ヲ以人ヲ
之實ハ其直道也来ニ付ツケル
之邊延ハ亦美在ノ助ケテ好者又ハツ
ノ中亦之来リ以テ知テ亦在右邊地
孫有之是ノ事ヲ知テ前相能之志
相助リ其由有也ハ少ノ事實ハ人
ナリ

大加村之所又右ノ姓名也清口村并
其之右邊ノ助口村ノ所居之部ハ
勤ニ清市ニ清文をムルノ助方ニ清宣ノ
在可并助新川富ノ助方ハ清宣ノ
今之邊控可及清口清ニ清也清一
清川村ノ名也其ノ事ハ七ノ事ハ清村
作助助作ノ助助ノ邊中清石松
安原村名也其ノ事ハ
ノ之姓ノ人
外大通九京紀 永正 松平清直

諸村 名所 権兵衛 経 去 松
名所 松 名所 権兵衛
ノ六人

右 自 守 地 松 前 者 由 心 相
認 心 山

リ十ジリ 越 目 守
牛 田 勘 之 進

右 松 前 分 心 守 地 松 前 人 其 界
松 前 心 守 地 松 前 人 其 界 松
一 右 通 支 配 系 松 前 心 守 地 松 前

七 松 人 松 前 心 守 地 松 前 人 其 界
勤 心 傳 訓 心 守 地 松 前 人 其 界
心 守 地 松 前 心 守 地 松 前 人 其 界
指 七 人 是 心 守 地 松 前 心 守 地 松 前
一 生 死 事 松 前 心 守 地 松 前 人 其 界
心 守 地 松 前 心 守 地 松 前 人 其 界
右 心 守 地 松 前 心 守 地 松 前 人 其 界
心 守 地 松 前 心 守 地 松 前 人 其 界
心 守 地 松 前 心 守 地 松 前 人 其 界

國之活動は其の足元を固くせしめんとす
おとよの山をめぐりて早稲の穂を刈りて
しるしを

六月廿四日

田舎の活動
温島忠孝
以四行年

山城

即ち即ち定御役所

右の通り田舎の活動は即ち定御役所
寺の南に相立寺の邊に寺の邊に
信濃の徳士と村に相立寺の邊に

以て寺の邊に寺の邊に寺の邊に寺の邊に
寺の邊に寺の邊に寺の邊に寺の邊に
寺の邊に寺の邊に寺の邊に寺の邊に

六月十日

右の通り田舎の活動は即ち定御役所

是

寺の邊に寺の邊に寺の邊に寺の邊に
寺の邊に寺の邊に寺の邊に寺の邊に
寺の邊に寺の邊に寺の邊に寺の邊に

一 松葉野城下から果つ十三里から新島
古知死弾丸手紙大直丸六月十日
手紙二枚打紙人紙二枚(作紙)心
手紙三枚紙水三枚名抄紙人紙三枚
殺死骸志其信三枚石紙信礎切密書
流戸由

一 其お十場高運之屋お市入道
没命之寤屋一松三つ人三つ作紙三枚密殺
中由其所没命人松三つと云ふ不指
右三つと打紙三枚相御山事行信三枚相

制戸山由三つ中三枚相御山由

一 又三つ十三里隣場不キツフと戸場不日扶
古三枚中三つと運三枚三枚合山三枚没命人
書人直司三枚不日信人信三枚矢三枚
三枚密殺中由

一 古三枚信三枚知死弾丸合紙信不日人
三枚信三枚見知三枚場不日合紙信水三枚
古三枚信三枚信三枚不日信三枚合紙信水三枚
信三枚信三枚信三枚不日信三枚合紙信水三枚
信三枚信三枚信三枚不日信三枚合紙信水三枚

其の日月のわが子孫を授けたる者なり
山由目より内は怪動平に事なり
新く威應丸号く島右衛門のわ
才相司にて事なり
山然新の系は司以て名を相司
由毒かひしし殺し相司の子孫
か合を強し誠ありしあり修む事
付と相殺おれ年月よりお事
押さるる劫平並通し昔人相
水に等し相人系打殺し其後事

と中不と一押事山示さるる事
おとち相さるる山由事なり
古子事山比り事なり
中候胸振の毎く評定不相寛大
隆動の由は事なり
事なり由比り事なり
か一退り討て事なり
ト山先一其り事なり
山新事なり
知可し事なり

二月七日

口島三郎

淡路百忠清和

三宅日向、是れは、弘安二より、此方名元、

松前松澤勤、平日所より、十三日、

信大將

新井田海部

松井三郎

山目守

松前平角

長柄守

松崎五郎

子孫世傳

書院書

福山角

原守

松井源七

御禮書卷 終末

足利義満、人、是れ、千、人

十、月、日、由、白、衣、南、

は、折、六、月、日、由、

所、以、言、折、六、月、日、由、

一、松、前、守、折、六、月、日、由、

右

清經御成、是、在、所、

如、身

福列
之
人

寛政之酉年

松野

南部内務局
松野
備用
上野代

六月

五十四丁未
同
年
仲
兵
礼
五
十
五
己
酉
死
親
退
治

福列
之隔
人若

三指人際之長花干之百八
積之...

久名之長黃月如月之...

一騎為中干之...

長之...

三尺條錦...

由手...

松...

...

...

...

...

...

...

...

...

五十四丁未... 五十五己酉... 退治

福列
人之
去

揮... 後人... 錢...
 招... 後人... 定...
 三... 通... 凡... 十...
 人... 二... 人...
 子... 名... 所...
 子... 傳... 人...
 子... 招... 其...
 子... 進... 海... 國... 出

招... 人...
 招... 人...
 副... 招...
 軍... 招...
 後... 招...
 後... 招...

五十四丁未... 年... 兵... 五十五... 國... 報... 退... 治

福列
之
人

弓子

弓子

侍

廿中人

弓

百人

雜

百

騎

中人

外兵船云被獲近之通兵積右

通海兵固

相意平

副

兵

軍

兵

海

兵

海

兵

弓

兵

侍

百人

弓

百人

雜

百

自乾隆... 五十四丁未... 親... 年... 兵... 五十五... 已酉... 死... 親... 退... 治

福列
之
人

ツケシクスリノモト	海をり	然天者
空	中	一
毒	同	相
人	り	く
似	表	人
信	ハ	重
又	是	之
非	之	形

夏子ヨシ

白乾隆辛酉年
五十四丁未
同八辛酉
年仲
兵礼
五十五
己酉
死
親
退
治

去春自台灣兵禮度令戰者之既傳承
軍陽勝錄之儀之諸衙門恐各之儀
川口通事九、同身如始大熱之石標也若實
石名點五知均大官屋立入之向人九口移
其不具圖之趣大之

一 去夏復福州府彰化縣之人林興文
年長之台灣府彰化縣之人林興文
武秀才文福家之者于所縣官

賄賂ヲ貪リ右林氏は遊龍中抵穿合誌
折帝林氏無実科違下ヲ憤去年
八月に從黨興而穿ヲ彼林氏救也
縣有之教親軍夫より林興文之軍兵
集定前之意趣を以て合親の及云
北末頃より台湾四縣内三縣攻取り
今一縣を危に成福列の防無は是は海
沿に防備有し況や北京に及進文の
討

進討身賊方別之及敗之云向中人
此中後之月午旬にあり淡水より
及合親少の元互に指肩有る云々
守古也

一八月初頃福列水師本二二敏氏大將
守備把総兵二千人行率南大橋不
敵二十艘を取棄如台湾に得有
其場跡取人元より其運る是物

之少心為其好千也及討賊者之終
彼方有復門遠下也其午時台灣
南後所諸羅淡水竹塹之孫子亦陳其
反賊九亦破男也死人生捕也其福列
賊元捕賊也其流陳人其在也中途
尚下也

一七月初海台濟南潭中列于所
數多也其夜於又南北中圖
不官字

之命大將也其子也征討之軍功
勇候于一候位也討者也其
之後也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也
一九月也其也其也其也其也其也
賊無九也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也

一 十日初頃福列城內旗上兵五百人得城
兵旗下兵三百人同日午向江四川省分
兵數あちち人咬囉番兵四百人十日初
江、牛水原兵五百人部合とちち人
あちち原へ台湾へ兵隊を遣ふ
一 右咬囉番兵者谷板とちち年代、故を以
て極強兵とて之を常備とす、故に
程々と進むる者あり、右兵は兵隊

福列通政所、兵と因門の兵、隘路、
人、牛、馬、向、江、牛、水、原、の、兵、把、門、官、と
し、後、婦、女、別、に、居、る、所、に、衙、門、の、巷、に、
告示あり、
一 右式諸列の兵隊、兵數、あちち、兵、
隊、の、名、も、也、と、官、兵、局、に、入、し、玉、文、輝、と
し、申、入、る、事、も、あ、り、去、年、の、冬、に、漢、不、福、
建、省、に、兵、を、了、す、中、人、は、兵、隊、の、兵、數、

小唐船方大守者
大唐船方官令
小唐船方才府
大唐船方才府

諸見是軍 親重之
運之天軍子 親重之
名嘉安 親重之
渡久山 親重之

申
二月

白石先生書卷

先月廿八日... 貴殿... 一急... 此... 也...
... 謝... 弟... 也...
... 於... 弟... 也...
... 今... 也...
... 也...
... 也...
... 也...
... 也...
... 也...
... 也...

うらしいとらまひし けをまゝ馬車か
うすとも統を新のこまふ草をと取
流しゆをふ海の旅とあめのかね
物のあまそふやまみゆをいひやく
なれしこもあめいこまのこま哀惜し
郡中し物をもあつとこや高橋
物をもうくこまゆしこまゆし
物をもいこまあめいこまゆし
物

うらまひしけをまゝ馬車か
うすとも統を新のこまふ草をと取
流しゆをふ海の旅とあめのかね
物のあまそふやまみゆをいひやく
なれしこもあめいこまのこま哀惜し
郡中し物をもあつとこや高橋
物をもうくこまゆしこまゆし
物をもいこまあめいこまゆし
物

かよとのに月持は威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる

命根の格或をりしを依依
本中の或るは能同のりか
甘あはれあはれ
かよとのに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる
わの持のに威の方と能なる

わの持のに威の方と能なる

侍

新井宿

君養
四

十一

心石

定年 執書

新井宿

か？ 枕の

船

こ

舟

あ

あ

た

竹の成は延生凡の... 宗長も此

物中書項義... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

物中書項義... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

の... 武門の解系ある

法に依りてはもろくこのまじり
ゆるくはくしりしはくあはく
年月後毎しよしはくあはく
程ありし者あはく

方樹院のり方いりて

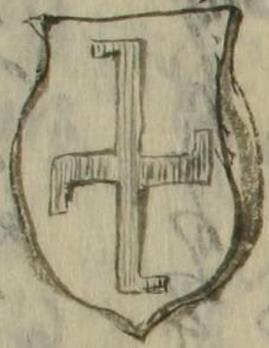
○道東殿の兼くは海海共ありて
御座るものと知程の字

とよあそ
新録の
海家の
たふと書
あはく

あはく
あはく

あはく
あはく

Вит. 810
pl. 2111



C rampo,
ree.
(in de wapen)
kunde) een
éenaaminge
gegeven aan
een kruis

十字

「この通、産者、士人、
は、この字、
を、用、ひ、し、り、

首楞嚴經卷第一之三十一葉
即時如來從胸中出寶光

○ nystspiegel, . . . 夜音 . . . 夜音

○ nist . . . 越後 . . . 同系

大園

「市の龍 在、
イナニ 自列

二九十日

うむら
れら
あ
あ
あ

註

前光從口，此光從胸者。前文從說顯
此文從心旬也。萬字者表無漏性德。
云阿婆底迦，此云有樂，即是吉祥勝德
之相。有此相者，必受安樂。則天長壽二年
權。此字安於天樞，其形如此。凡音為萬
字，佛胸前有此之形，此八種相中，此當
第一，謂吉祥萬德之所集也。

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

七五二のしちとて一はあゆむをたすけりた
りし言ふも十日及はほしし
二日及はほしし
三日及はほしし
四日及はほしし
五日及はほしし
六日及はほしし
七日及はほしし
八日及はほしし
九日及はほしし
十日及はほしし

大平一之介

十月十日

十日及

たすけりた
りし言ふも
十日及はほしし
二日及はほしし
三日及はほしし
四日及はほしし
五日及はほしし
六日及はほしし
七日及はほしし
八日及はほしし
九日及はほしし
十日及はほしし

一横

